



萬葉集註釋

卷五
六
七
八

特別
ハ4
5497
2



之後の...
 柿...
 又...
 然之...
 この...
 大...
 盤...
 付の...
 吉...

まの...
 陸...
 ま...
 い...
 お...
 昔...
 の...
 と...

其の海ありて人すたる海とするの海ありて人の海ありて

りありて人すたる海とするの海ありて人の海ありて

山部宿禰赤人至伊豫温泉作歌詞中
伊豫能高願乃射校庭乃壘尔立而

伊豫の... 伊豫國風云温郡天皇

茅於湯章行降坐五度也

景行天皇 上日子天皇与太后八坂入罪命二軀為一度也

仲哀天皇 中日子天皇与太后息長足罪命二軀為一度也以上
宮聖德皇子為一度及侍高麗惠慈僧為城王等也立湯

是側碑文其立碑文知謂伊社近波之置也所名伊社近波由者當
土諸人等其碑文欲見而伊社那以來因謂伊社尔波本也

聖本天皇 在皇名二軀為一度于時於大殿戸有楮云臣木於

其木集止鶴子以米島天皇為此鳥枝繫稱穗等養賜也以

後聖本天皇 近江古澤宮御宇天皇降御原宮御宇天皇三

軀為一度此謂章行也度也
臣木免生繼尔之邪里 臣木可尋

百式紀乃大宮人之餘田津尔船乘將為年之不知久

日本元皇年十卷云天皇七年春正月丁酉朔庚戌御船泊于
伊豫國田津石陽行宮 聖田津此云 伊豫國志云
皇居為曰美松多波尔波互下美礼婆云々云々云々 口新道

世間千仞海の音

今も千仞海の音... 酒の音... 世間千仞海の音

世間千仞海の音

今も千仞海の音... 酒の音... 世間千仞海の音

世間千仞海の音

今も千仞海の音... 酒の音... 世間千仞海の音

今も千仞海の音... 酒の音... 世間千仞海の音

山部宿禰赤人登春日野作新羅中

飯海乃河原之乳島汝鳴者吾作保河乃所念國

部之物也古既不知之也

山部宿禰赤人登春日野作新羅中

春日乎春日山乃

まのりあすの山乃... 春日乎春日山乃

反歌

やあつ... 反歌

あつ... 反歌

秋原羽之神振姉乎

あつ... 秋原羽之神振姉乎

あつ... 秋原羽之神振姉乎

青山之嶺乃白雪朝尔食尔恒见柳毛目類は吾君

あつ... 青山之嶺乃白雪朝尔食尔恒见柳毛目類は吾君

此神也前因風... 杵治郡縣南二里有一孤山從坤

此神也前因風... 指良之峰相連是名曰杵治神者曰以古神中者曰以骨神良者

曰所子神一名軍神動則兵興天則士女提酒抱琴每歲春秋携手登望

樂飲舞曲而席舞氣云阿羅孔符錄者資然加多壇塢

誤成紫弥占區緩刀理我泥底伊母我提鵝刀縷誤

有記奇の心... 杵治郡縣南二里有一孤山從坤

振くた伎乃流来者

杵治郡縣南二里有一孤山從坤

竊聽新句

安倍而榜出年命波母之體氣味

安倍而榜出年命波母之體氣味

安倍而榜出年命波母之體氣味

あてとあつても... 杵治郡縣南二里有一孤山從坤

あてとあつても... 杵治郡縣南二里有一孤山從坤

あてとあつても... 杵治郡縣南二里有一孤山從坤

あてとあつても... 杵治郡縣南二里有一孤山從坤

あてとあつても... 杵治郡縣南二里有一孤山從坤

あてとあつても... 杵治郡縣南二里有一孤山從坤

あてとあつても... 杵治郡縣南二里有一孤山從坤

あてとあつても... 杵治郡縣南二里有一孤山從坤

あてとあつても... 杵治郡縣南二里有一孤山從坤

あてとあつても... 杵治郡縣南二里有一孤山從坤

あまのこいし 御高屋 北去百歩 許有島名曰阿波嶋 さらば此島を
りて 飲まらばいせうとあまを飲まむ

浪上平舟行た具久美盤問半射往廻

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

秋田之穂田乃并盛加香縁相者枝可乞加人之吾手事将成

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

吾以在之相二指流絲用而附手卷物今昔悔寸

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

春日野乃此島のいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

ろやの字の河の〜

千鳥鳴作保乃河門乃願年廣御打橋後次奈我未踏念者

奈我未踏念者ナガミツノボと云ふ思ふと云ふ事ナガミツノボ同く終り兒名が可ナガミツノボ祈す

伏保河乃渡之官能小歷東莫列鳥在在毛張之来者立隱全

此物古歌ナガミツノボの川の〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

事清甚気真言一日た尔君伊之哭者痛寸取物

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

神龜元年三月朝臣金村作被初申

安蘇一尔波

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜

〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜ナガミツノボの〜


~~~~~

絶帯之者和備深者乃横太刀乃隔付能事者也吾君

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

相見者月色不絶命意云者半曾只登吾手於气保家先就

~~~~~

~~~~~

不念常曰手師物乎翼離色之妻為未吾意可聞

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



そのの茶境ろり

私云或人云延喜式云片境者底俾器之可見式七七板

大伴坂上即女從跡見莊贈留宅女子大娘初初中

常呼二跡吾行英國不全門尔物焉良尔念有之

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

昔年吾不紐尔着有跡鬼乃志新茶事二思安利家理

松原養生齋曰昔茶志愛~~~~~

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

将相夜者何时将有乎何如常常者彼夕相而事之繁榮

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

~~~~~以下五字板本ナリ~~~~~

事不同本尚味後管諸茶等之練乃村人二所詠来



























Handwritten text on the right edge of the right page.

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

可麻度案橋大氣市  
後多豆交

コト大舞布後多豆交  
古兵ニハヒケテキラス  
ト臣セリイサナキヨカ  
ラヌ上氣ツケアリトヨ  
ル帯ノコトセツケルマ  
ツナスト臣マヘ

收延島乃能抑共以居尔

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

Handwritten text on the left edge of the left page.

たのしみ〜〜〜〜〜  
親友相道のみよ

い〜〜〜〜〜  
魚〜〜〜〜〜

好去好事来初月中

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

大御神等如神尔先

〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜

智可能神欲利

〜〜〜〜〜

治癒自哀文宛中

欲願二皇之逃匿謂晋景公疾秦醫緩視而還者謂為鬼可致也  
二皇と云者、晋の景公疾す。秦の醫緩、視之而還者、謂之鬼可致也。  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜





萬葉集註釋卷第六

第六卷

山部宿禰赤人作歌詞中

花咲乎遠里云々

とてそふあがりてを河也

たさるうみたさるをすまむいさす。くらえのうさ。ゆのぞとあ。

くらえの~~~~播磨國にあり。むら。佐吉古明神宮のまをささせ

かひく。海ささささ。ちひひの。海ささ。この。海ささ。人さあ

と我領すす。その。ささ。ささ。の。夜。ささ。ささ。ささ

ささ。ささ。ささ。ささ。ささ。の。所。領。也。

玉藻苅新乃島尔島廻考流氷島二四毛有哉家不念有六







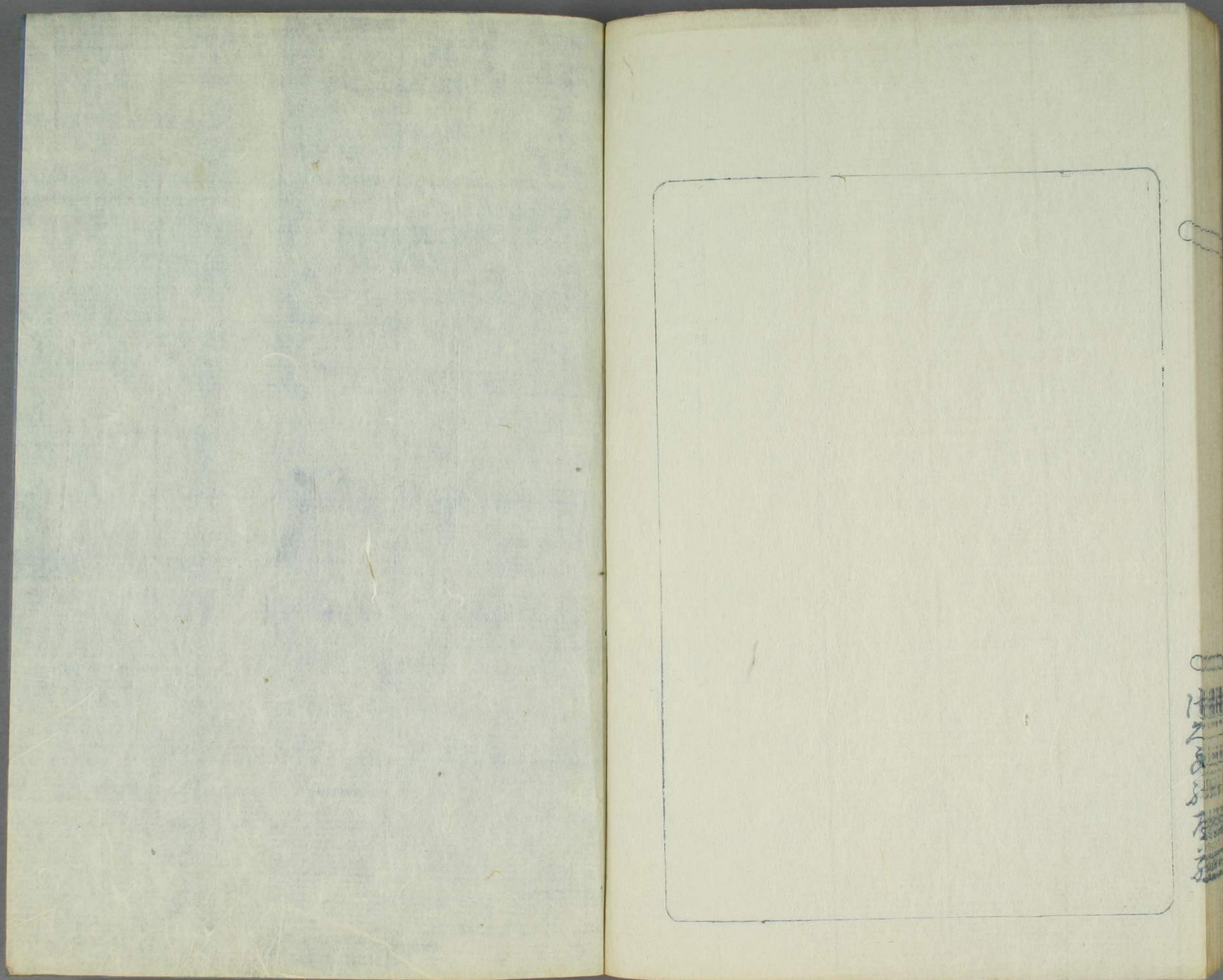












冊  
之  
第  
一  
卷

